



学校だより



1月号

令和8年1月8日
江戸川区立瑞江小学校

技術の利活用を考える

校長 牧岡 優美子

令和8年、新しい年になりました。保護者、地域の皆様におかれましては、穏やかな年明けを迎えられたことと存じます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

令和8年はスポーツに親しむ機会が多い年です。お正月は箱根駅伝、2月は冬季オリンピック、3月は野球のWBC、6月はサッカーの世界カップ、9月はアジア大会。次々と活躍する選手たちの姿に、日本中がワクワクしながら応援することになると思います。今から楽しみです。

さて近年、生成AIや半導体関連のニュースを耳にすることが多くなりました。AIは日進月歩の進化を続け、株価上昇など経済にも大きく影響しています。この流れは世界的なもので止まらない現象です。

教育分野でも、文部科学省が「学校の初等中等教育段階における生成AIの適切な利活用を目的としたガイドライン（Ver.2.0、令和6年12月26日）」を策定しました。これは、子どもたちが利活用する際の基本的な方針と実務的なポイントを示すものです。「適正利用」「情報セキュリティ」「個人情報・著作権」などの重要性も明記されています。言わば、学校教育の中で生成AIを活用することが前提のルールブックです。

先日、他区の小学校で子どもたちが生成AIを利活用している授業を参観してきました。国語の学習していた6年生は、4人グループで話し合った後に、生成AIを活用しさらに自分たちの意見を深めようとしていました。もっと深めたいことをプロンプト（質問・指示）に打ち込むのですが、4人の会話を聞いていると「〇〇の立場で説明してくださいって聞こう」「何文字くらいって決めたほうがいいよ」など、曖昧な説明・表現を避けようとしています。それでも回答が思い通りでなかったようで「言葉が分かりにくかった」「聞く順番が違った」「もっと具体的に聞こう」などと話しながら、何度も色々な表現を試していました。その過程で回答に反応したり、新たな視点を見つけたりして4人の会話が弾み、生成AIが5人目の意見として潤滑剤になっていました。

授業の最後には、全員が自分の考えを再構築することができました。これから疑問、質問、意見を明瞭な言葉に言語化する力は、他者ともAIともコミュニケーションを取るために不可欠です。子どもたちの楽しそうな顔を見ながら、そんな時代が来たんだなと感じる授業でした。激しく変化し、先の見えない時代に、自ら課題を見だし、未来を切り拓く子どもたちを、大切に育てていきたいと思っています。

教職員一同、瑞江小学校の子どもたちのために力を尽くしてまいります。今年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。